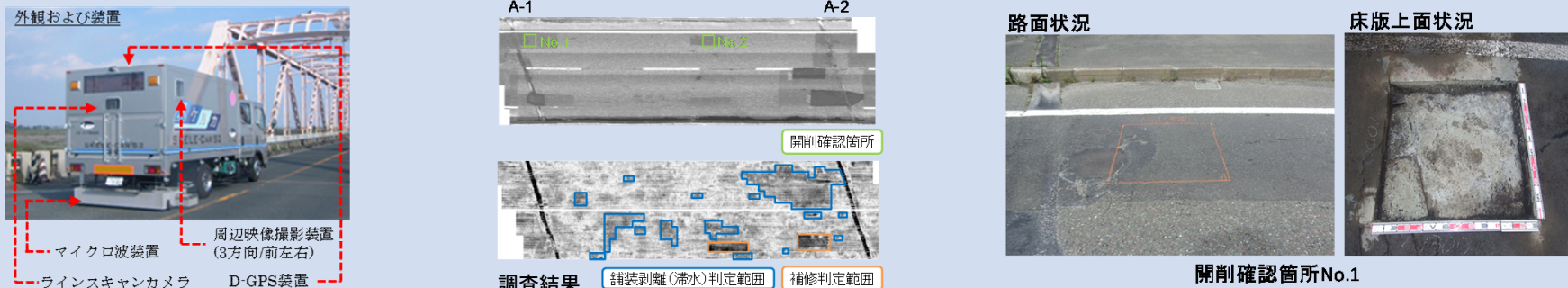


技術名	スケルカ・橋梁床版内部診断技術	
開発者	ジオ・サーチ株式会社	
技術概要	地中レーダ装置を搭載した車両により、マイクロ波の反射応答を捕らえ、舗装や床版の状態を調査する。	
試行状況	 <p>外観および装置          周辺映像撮影装置 (3方向/前左右)          マイクロ波装置          ラインスキャンカメラ          D-GPS装置</p> <p>調査結果          舗装剥離(滞水)判定範囲          補修判定範囲</p> <p>路面状況          床版上面状況          開削確認箇所          開削確認箇所No.1</p>	
	従来技術(舗装開削による調査)	新技術
精度	目視や打音検査により異状を確認し、舗装を開削し床版の状態を確認。	マイクロ波の反射応答を捕らえ3次元データ化することから面的な調査が可能。目視で確認できない、床版内部や桁の状況についても確認が可能。
効率性	1橋(開削2箇所)あたり 約1.5日(開削90分、調査30分、復旧90分、報告書とりまとめ1日)	1橋あたり(約30m) 約2.5日(調査5分、概略解析0.5日、詳細解析2日) 概略解析で劣化の有無を判定可能。
コスト	調査の他、舗装切断・取り壊し・復旧費、交通誘導員の配置が必要。1橋あたり約2百万円	車両による調査のため、舗装の切断・復旧や交通誘導員が不用。1橋あたり約30万円
評価	舗装開削をしなくても、床版に異状があるかどうか判定することが可能であるが、どのような損傷があるかまでは判別はできない。面的に調査が行われることで、開削調査箇所を特定するスクリーニング調査や調査結果をストックし経年変化のモニタリング調査に活用することが考えられる。今回は1橋において試行を行ったものであり、実際に運用していくためにはデータを蓄積が必要であり、現場試行を継続し実施する。	